

商品の機能が十分に発揮されるように、この施工説明書の内容に沿って正しく取り付けください。
取り付け後は、お客様にご使用方法を十分にご説明ください。

安全に関するご注意 (安全のために必ずお守りください)

施工の前に、この「安全に関するご注意」をよくお読みのうえ、正しくお取り付けください。
この説明書では、商品を安全に正しくお取り付けいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。
その表示と意味は次のようになっています。

表示	意味
	注意 この表示の欄の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

※物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を示します。

お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

	は、してはいけない「禁止」内容です。 左図は、「禁止」を示します。		は、必ず実行していただく「強制」内容です。 左図は、「必ず実行」を示します。
--	--------------------------------------	--	---

注意	
	禁止 便器に強い力や衝撃を与えない 便器が破損してけがをしたり、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。
	必ず実行 設置工事に使用する部品は必ず付属部品および指定部品を使用する 正常な取り付けができなくなる可能性があります。 設置工事は、この説明書に従って確実に 故障や水漏れの原因になります。

別途発注部品

名称	品番		備考
	新設	リモデル	
排水フランジ (塩ビ配管用) ※1	HP430-1	-	VU・VP100用
排水フランジ (塩ビ配管用) ※1	HP430-7	-	VU・VP75用
排水フランジ (鉛管用) ※2	T53WR75	-	75mm排水管用
排水フランジ (鉛管用) ※2	T53WR100	-	100mm排水管用
樹脂プラグ ※3	HH04060	-	φ8 (10個/1組)

※1 排水管が塩ビ管の場合 ※2 排水管が鉛管の場合 ※3 床材がコンクリート・モルタルの場合

使用工具 (別途ご準備ください)

六角棒スパナ (呼び径4)
※掃除口取り付け用



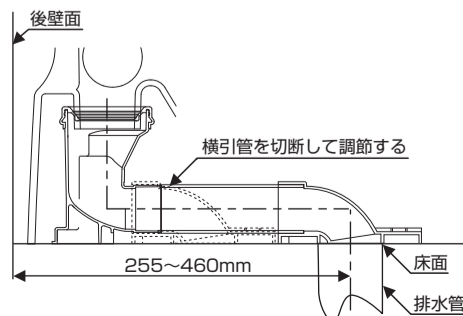
取り付け前のご注意

- 施工や運搬、清掃時に触れる可能性のある金属類は、陶器と接触しないようご注意ください。
金属類が陶器表面をこすり、スジ状の跡が付くおそれがあります。
- 取り付けに必要なトイレスペースを確保するとともに、ドアの開閉に支障がないことを確認してください。
- 商品への通水は取り付け作業をすべて終えてから行ってください。
- 最低必要水圧：0.07MPa(19L/分流動時)が必要です。
この水圧を確保できないと汚物を排出しないことや止水不良になることがありますので注意してください。
最高水圧は0.75MPaです。
- 施工前に給水管取り出し位置および排水管位置が所定の位置であることを確認してください。
所定の位置にない場合、商品が正しく取り付けられないことがあります。
- 便器洗浄付のウォシュレット、またはリモコン便器洗浄ユニットを設置する場合は、必ず専用品を選定してください。
専用品以外の場合、便器洗浄機能が正常に作動しません。
詳しくは、住宅&パブリックカタログ、専用カタログをご確認ください。
- 掃除口付きの場合は、メンテナンスのために便器中心から横壁まで375mm (作業可能な最小寸法) 以上の空間を設けてください。
なお、TOTOが推奨する標準寸法は400mmとなります。
- 施工前には、埋設されている給水管などの破損を防止するため、位置を確認してください。
- 止水栓を取り付ける前に必ず給水管内のごみ、砂などを完全に洗い流してください。
- 商品セット図は、住宅&パブリックカタログ、または設計施工資料集をご確認ください。
- 取付面がコンクリート、モルタルの場合は、樹脂プラグ「HH04060 (φ8、10個1組)」を別途手配してください。

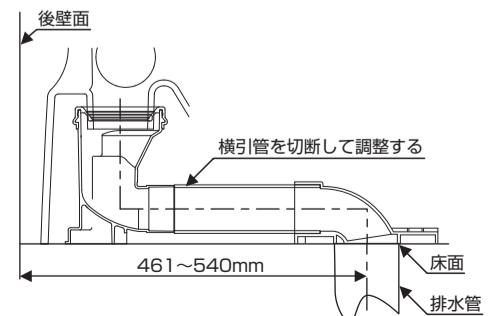
排水心の確認

- 排水心255~460mmの場合
横引管を排水心にあわせて切断し、塩ビ接着剤で確実に接着してください。
詳細は手順⑤のケース①、ケース②をご確認ください。

※排水心255mmの場合、横引管は不要です。



- 排水心461~540mmの場合
位置決めシートをずらして横引管を切断し、塩ビ接着剤で確実に接着してください。
詳細は手順⑤のケース②をご確認ください。
便器を前にずらして施工してください。



例) C730からの取り替えの場合、排水心が壁から540mmにあるため便器と壁とのすき間は約90mmとなります。

同梱部品

※部品があるか、下記を参照して確認してください。

※品番によっては、図と現品が一部異なります。

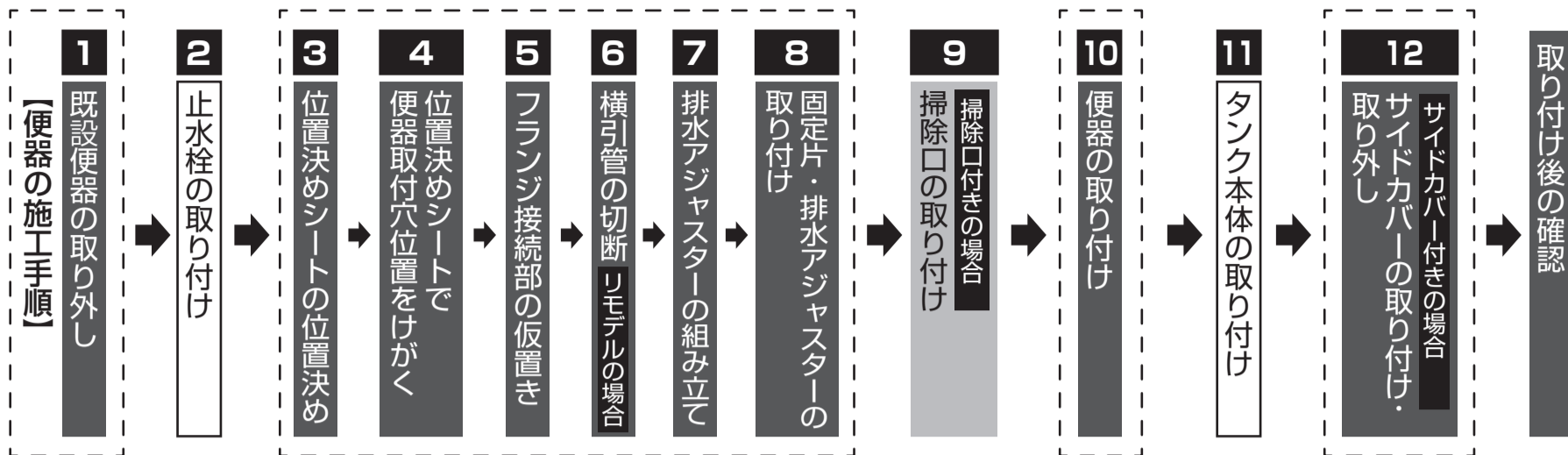
排水ソケットセットとしてご購入いただいた場合		
排水アジャスター	固定金具類	化粧キャップ類
新設	リモデル	
便器接続部 (1個) ※ゴムジョイント付き	便器接続部 (1個) ※ゴムジョイント付き	固定片 (1個) ワッシャー (後固定用) (2枚) 木ねじ (後固定用) (φ4.8×90:2本)
フランジ接続部 (1個)	横引管 (1個)	Tボルト (2本) 皿木ねじ (前固定用) (φ5.8×56:1本) 木ねじ (固定片用) (φ5×50:2本) 木ねじ (便器接続部用) (φ5×50:2本)
	フランジ接続部 (1個)	Pシール 金属フランジ用 (1個) 樹脂フランジ用 (1個)
		その他 施工説明書 (1部) 位置決めシート (1枚)

便器セットとしてご購入いただいた場合		
便器本体	サイドカバー	化粧キャップ類
(1個)	サイドカバー(右) (1個) サイドカバー(左) (1個) サイドカバー付きの場合	化粧キャップ (前固定用) (1個) 化粧キャップ (後固定用) (2個)

掃除口ふた部品 (掃除口付きの場合)				
パッキン (1個)	ボルト一体型止め金具 (1個)	ふた本体 (1個)	C形座金 (1枚)	施工説明書 (1部)

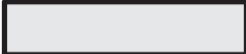

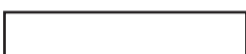
施工手順

この施工手順に従って便器・タンクを正しく取り付けてください。( は本紙、  はタンク、  掃除口の施工説明書を参照ください)



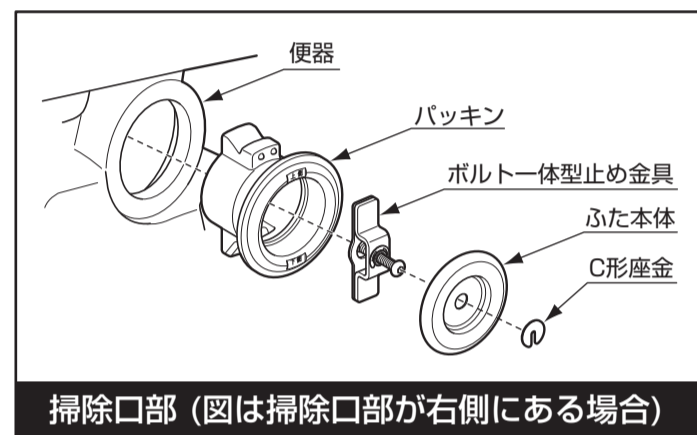
※上記は位置決めシートと床給水管が干渉しない場合の施工手順です。
干渉する場合は6ページをご参照ください。

各部のなまえと施工のポイント

-  : 新設のみ
-  : リモデルのみ
-  : 新設・リモデル共通

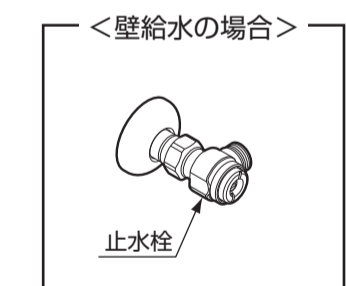
結露防止カバーは取り外さないでください！
再度取り付けることができません。
※取り外すと結露水で床をぬらすおそれがあります。

取り外さない
結露防止カバー



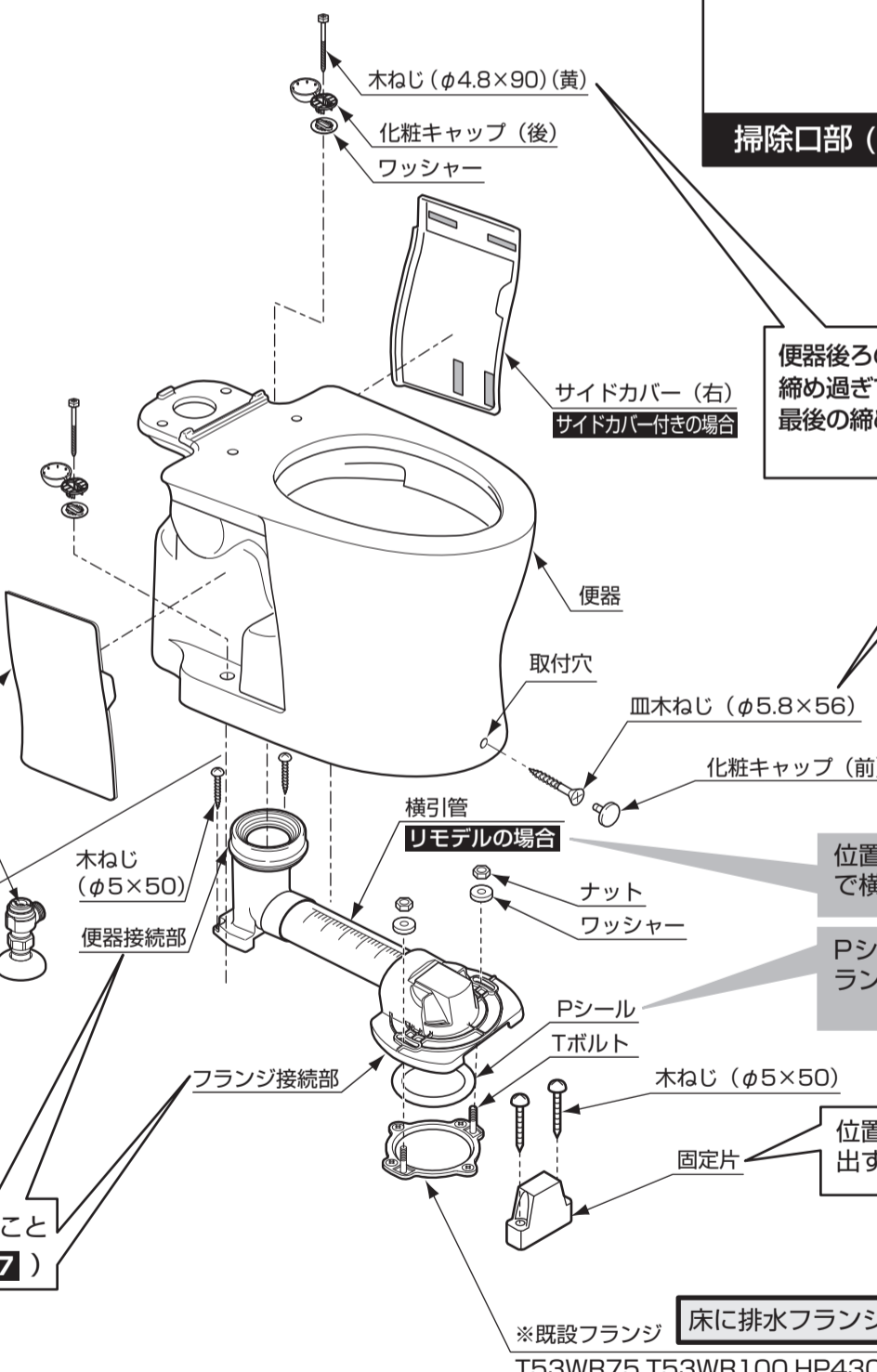
便器後ろの木ねじ固定を先に行うこと！
締め過ぎて便器を割らないこと！
最後の締め増しは手締めで行うこと！ (→10)

サイドカバーの取り付けは
タンク本体を取り付けたあとに行うこと！



※タンク同梱のフィルター付き止水栓を必ず取り付けてください。
ゴミかみによる止水、吐水不良になるおそれがあります。

床面に対してガタツキがないように接着すること (→7)



位置決めシートの目盛りと同じ目盛り位置で横引管を真っすぐに切断する (→6)
Pシールの種類およびセットの方法はフランジの種類によって異なります (→8)

位置決めシートで固定片の位置をきちんと出すこと！ (→4)

※既設フランジ 床に排水フランジを取り付けること！ (※別途発注)
T53WR75, T53WR100, HP430系

取付方法

1 既設便器の取り外し
既設の便器を取り外し、Pシールをきれいに取り除く。

2 止水栓の取り付け
タンク同梱の施工説明書に従い、止水栓を取り付ける。

取付方法

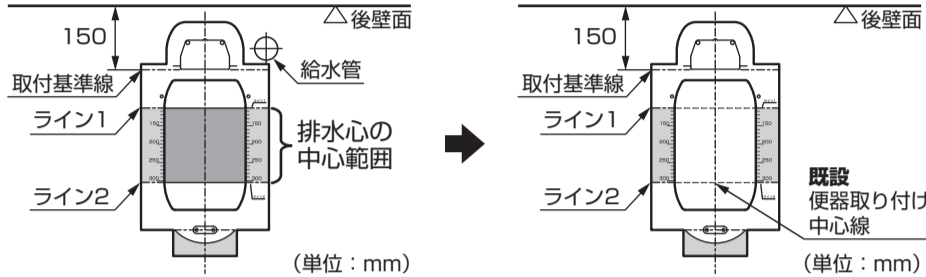
3 位置決めシートの位置決め

位置決めシートと床給水管が干渉しない場合の取付方法になります。
位置決めシートと床給水管が干渉する場合は6ページをご参照ください。

- 給水管取り出し範囲に止水栓があることを確認する。
※給水位置が適切でないと、止水栓が商品に干渉することがあります。
- 既設便器中心に、後壁面から150mmの位置に位置決めシートの取付基準線をあわせて置く。
- 位置決めシートを置いた後、排水心の位置を確認し、位置決めシートの位置を調整する。

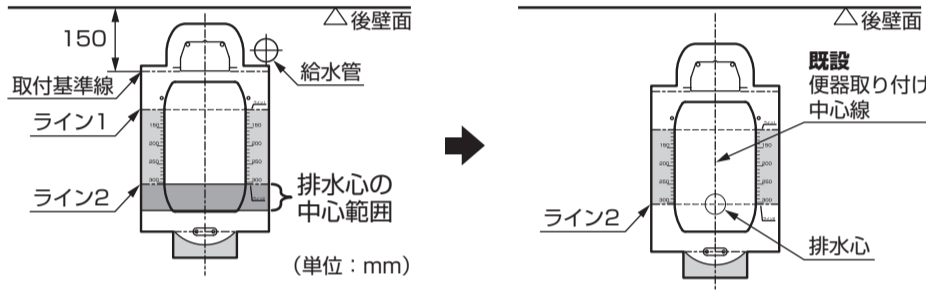
排水心の中心が、ライン1とライン2の間にある場合

位置決めシートの位置の調整は不要です。



排水心の中心が、ライン1とライン2の間でない場合

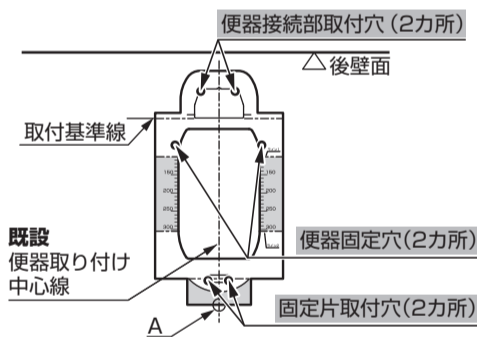
位置決めシートのライン2を排水心の中心にあわせて、位置決めシートを置く。



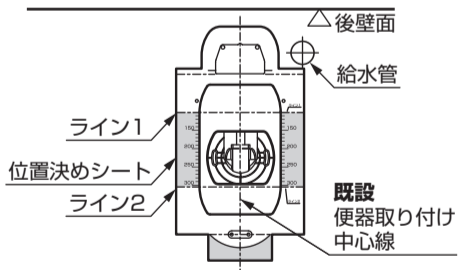
- ※取付基準線の位置決めは左右の2カ所で行ってください。
- ※後壁面から取付基準線の寸法が150mm未満の場合、便器やタンクが後壁面に干渉し、取り付けられないおそれがあります。
- ※寸法出しの際は後壁面から行ってください。(幅木からではありません)

4 位置決めシートで取付穴位置をけがく

- 便器接続部取付穴位置および固定片取付穴位置、便器固定穴位置をけがく。
- 鉛筆など(あとで消せるもの)で右図A(便器取り付け中心線)に印をつける。
- けがいた取付穴位置にφ3程度の下穴をあける。
※φ3程度の下穴をあけると作業がしやすくなります。



5 フランジ接続部の仮置き

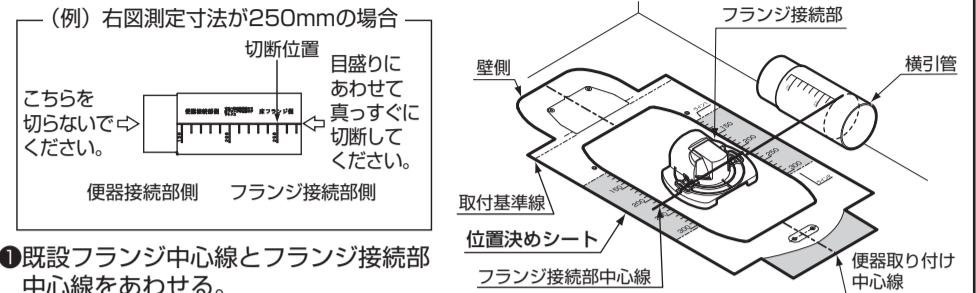


注意
フランジ接続部の仮置きは、壁面に対し平行となるように置いてください。
傾けて置くと、横引管の切断が正確にできなくなります。

ケース①	ケース②	ケース③
フランジ接続部中心線がライン1とライン2の間にある	フランジ接続部中心線とライン2が一致	フランジ接続部中心線とライン1が一致
目盛りにあわせて横引管切断	目盛りにあわせて横引管切断	横引管不要
6へ	6へ	7へ

6 横引管の切断 リモデルの場合

※新設の場合はこの作業は不要ですので7へ進んでください。



- 既設フランジ中心線とフランジ接続部中心線をあわせる。
- 位置決めシートの目盛りと同じ目盛り位置で横引管を真すぐに切断する。
- 横引管端部のバリを完全に除去する。

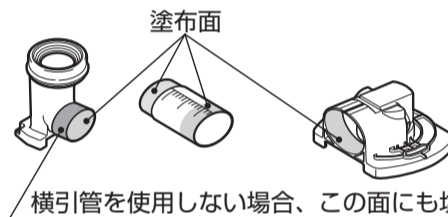
7 排水アジャスターの組み立て

※新設の場合、横引管はありません。

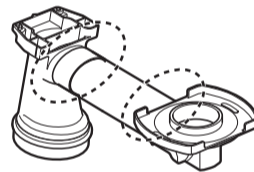
注意

- 横引管は最後まで、きちんと押し込む**
接着が不十分な場合、水漏れして家財などをめらす財産損害発生の原因になります。
- 床面に対してガタツキがないように接着する**
ガタツキが大きいと水漏れして家財などをめらす財産損害発生の原因になります。

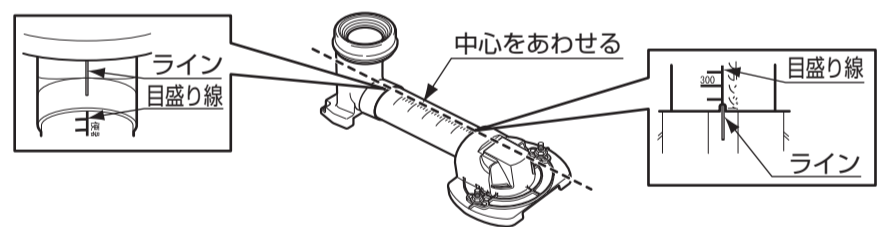
- 塩ビ用接着剤を十分塗布し、各中心をあわせるように組み立てる。



- 突き当たるまで差し込む。



- 各ラインを目盛り線とあわせてください。



取付方法

8 固定片・排水アジャスターの取り付け

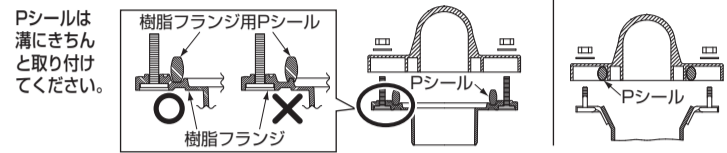
△注意

Pシール取り扱い上の注意

- 既設の床フランジのタイプにあわせ、必ず同梱（再取り付け時は同品番）の金属フランジ用Pシール（補修品番：TH633）または、樹脂フランジ用Pシール（補修品番：TH633-3）を使用する
- 既設のフランジタイプによって、Pシールのサイズと取付方法が異なるので、注意する

Pシールを間違えて取り付けると、洗浄不良などの不具合や便器が詰まり污水があふれたり、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

（樹脂フランジ用） （金属フランジ用）



- 排水ソケットの六角穴に、六角ボルトの頭部を確実にはめ込む
確実にはめ込まれていないと、便器がガタつくおそれがあります。



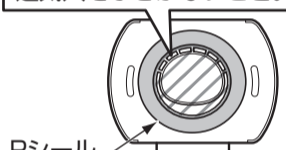
必ず実行

- 樹脂フランジの場合 Pシール(樹脂フランジ用)をフランジにセットする。
金属フランジの場合 Pシール(金属フランジ用)を排水アジャスターにセットする。
- 排水アジャスターをフランジに押し付けてから、便器接続部の取付穴(2カ所)に木ねじを入れ、確実に締める。
- 床フランジ接続部をワッシャー・ナットで既設フランジに固定する。
- 固定片を中心線にあわせて、木ねじで床(2カ所)に固定する。
床に木ねじをねじ込む前に、φ3程度の下穴をあけると作業がしやすくなります。

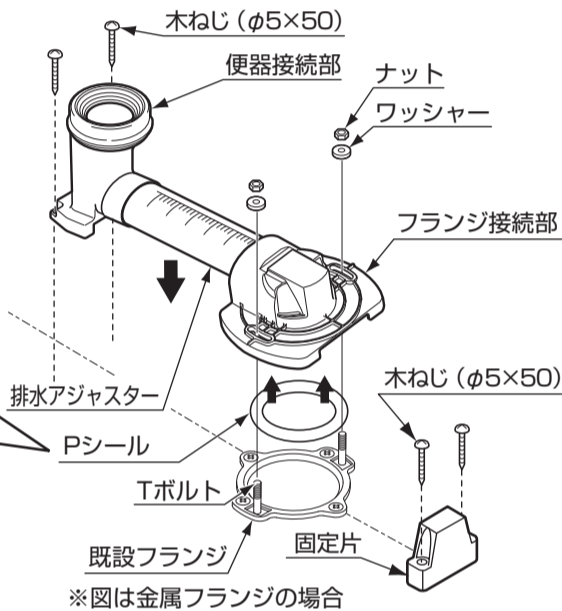
注意

Pシールが排水路部分(斜線内)に入らないようにセットしてください。洗浄不良の原因になります。

通気穴をふさがらないこと。



Pシール
(フランジ接続部裏面)
※図は金属フランジの場合



※図は金属フランジの場合

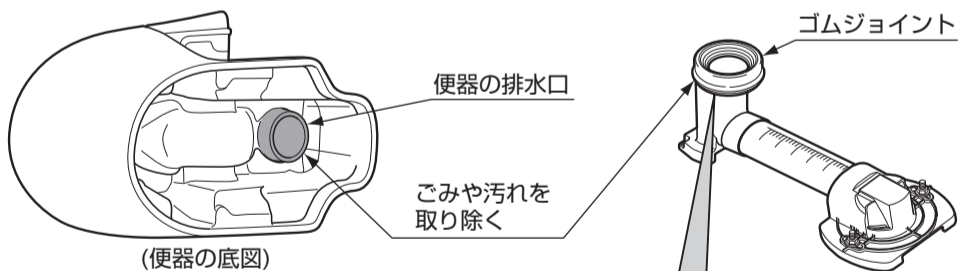
- ※気温が下がるとPシールが固くなることがあります。このときは、Pシールをあたためて柔らかくしてからご使用ください。

9 掃除口の取り付け 掃除口付きの場合

掃除口同梱の施工説明書に従い、掃除口を取り付ける。

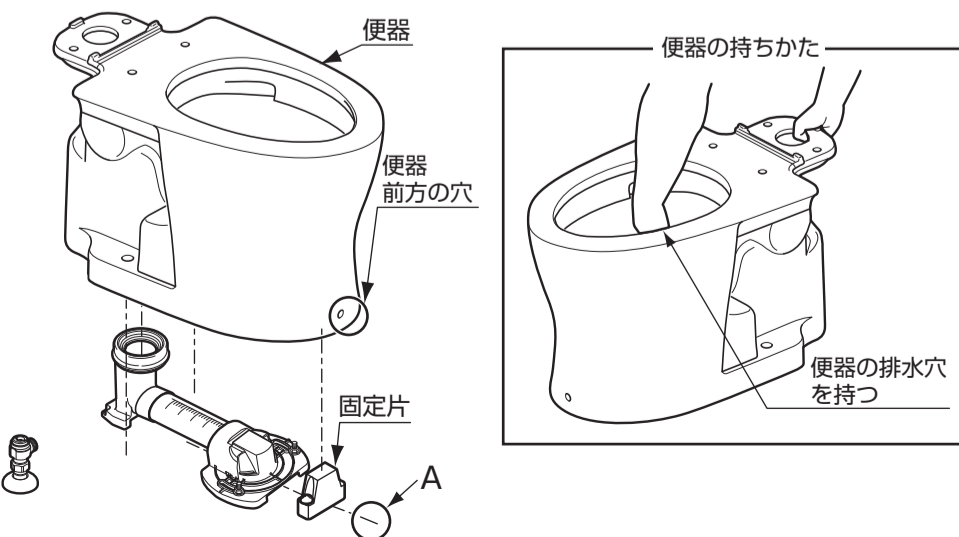
10 便器の取り付け

- 便器排水口および排水ソケットの接続部周辺のごみや汚れを取り除く。



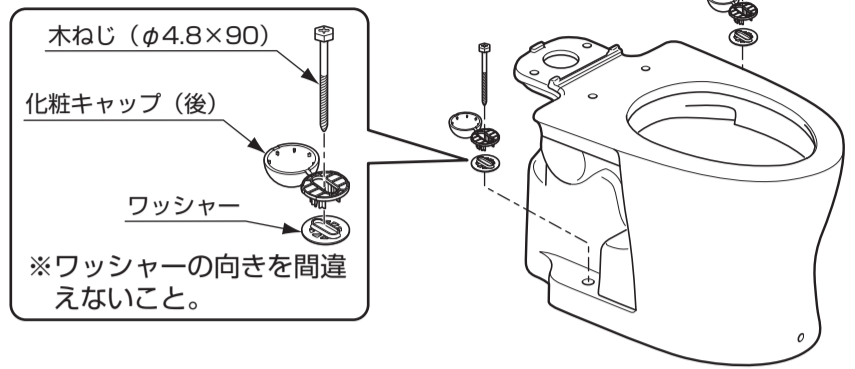
ゴムジョイントがきちんと取り付けられていることを確認してください。

- 便器排水口を排水ソケットに差し込む。
※壁面に幅木があり便器が取り付けられない場合には、幅木をカットしてください。
- 便器前方の穴を床にけがいた印(図A)にあわせて、便器の位置を微調整する。
※便器の持ちかたは下図を参考にしてください。



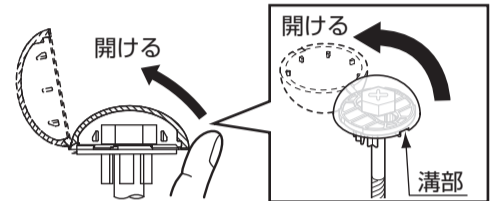
10 便器の取り付け(つづき)

- 便器後側の取付穴(2カ所)を木ねじ、ワッシャー、化粧キャップ(後)で固定する。
※締め過ぎて便器を割らないように注意してください。



<化粧キャップ付ねじの取り付けかた>

- 化粧キャップを開け、木ねじを取り付ける。

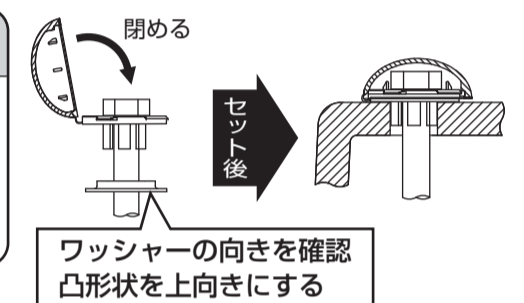


- 化粧キャップを矢印の方向に曲げて、「パチッ」と音がするまで押し込む。

△注意

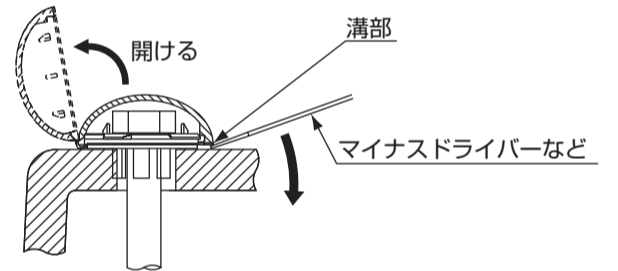
必ず実行

ワッシャーは正しい向きに取り付ける
反対向きに取り付けると陶器または部品が破損するおそれがあります。



<化粧キャップ付ねじの取り外しかた>

マイナスドライバーなどを使用し、化粧キャップの溝部に差し込み、矢印の方向に押さえて開く。

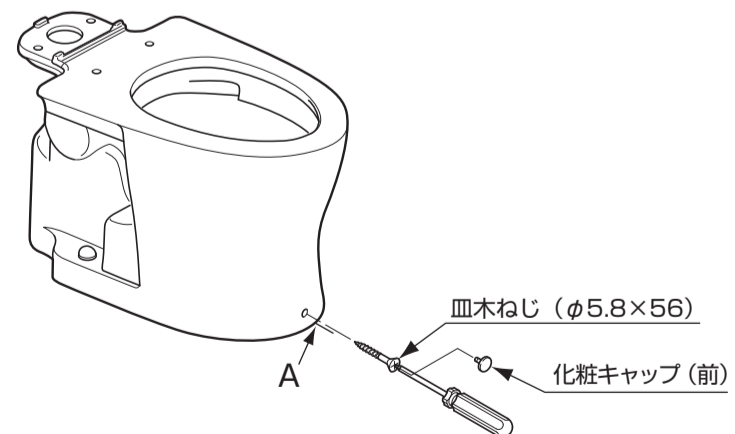


△注意

必ず実行

便器後部の固定を必ず先に行う
前側の固定を先に行くと便器が後方へスライドし、ゴムジョイント部から水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

- 便器前側の取付穴に皿木ねじを差し込み、固定片に便器を固定し、ねじの頭に化粧キャップ(前)を差し込む。
※便器前側を固定する際は、床にけがいた印(図A)と便器前方の穴をあわせてください。
※最後の締め増しは、手締めにより行い便器を割らないように注意してください。



〈床面に不陸がある場合〉
大便器下面にかい物をして大便器を固定したあと、すき間を白セメントなどで埋めて仕上げてください。
すき間は白セメントなどで埋めて仕上げる
かい物

取付方法

11 タンク本体の取り付け

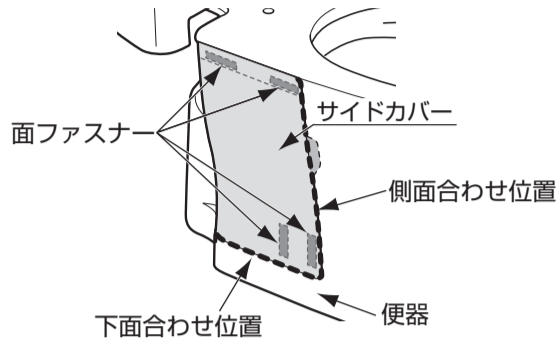
タンク同梱の施工説明書に従い、タンクを取り付ける。

12 サイドカバーの取り付け・取り外し サイドカバー付きの場合

<取り付けかた>

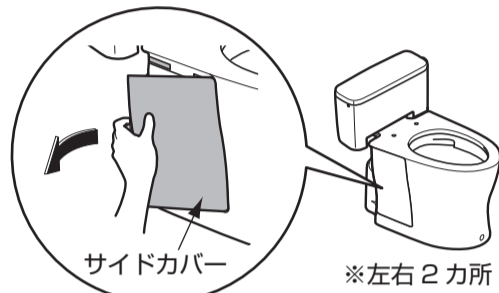
サイドカバー下面と側面を便器に接するようにあわせ、すき間が目立たないように取り付け。

※面ファスナー部（4カ所）をしっかり押さえて、サイドカバーが外れないことを確認してください。



<取り外しかた>

サイドカバー後方を持ち、手前に引いて取り外してください。



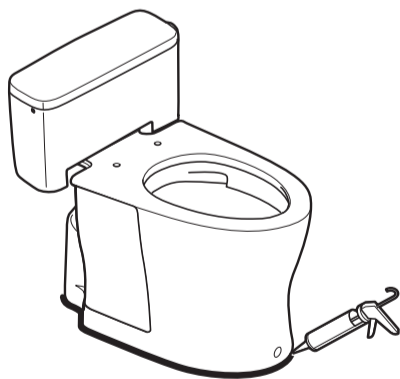
取り付け後の確認

- ・試運転後は、すべての接続部において水漏れしていないか確認してください。取り付けが不十分な場合、水漏れして家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。
- ・試運転(洗浄)後、便器ボウル内に配管の切粉など異物がないことを確認してください。もらいさびなど異物付着の原因となるおそれがあります。
- ・陶器表面に傷などが無いことを確認してください。陶器表面に金属類(時計のバンド、ベルトのバックルなど)が強く接触したり、こすれたりすると黒や銀色のスジ状の跡が付くことがあります。スジ状の跡が付いた場合は、当社製品「蛇口まわりのクリーナー」で軽くこすって除去してください。
- ・施工したあとは、便器ボウル内に油などの見えない汚れ(コーキング剤、配管用接着剤など)の付く場合がありますので、トイレ用中性洗剤(研磨剤なし)を使って、必ず汚れをふき取ってください。便器ボウル面の洗い残りの原因となります。

お客様に快適に使っていただくためのポイント

トイレ床材に防水加工がされていないフローリング(木質系)を使用すると、こぼれた小水や結露水などが便器と床材のすき間に入り込み、床シミが発生することがありますので、おすすめできません。

フローリング(木質系)を使用される場合は、便器ハカマ下部周囲に防カビ性のシリコン系シール材を充てんすることをおすすめします。



取付方法

位置決めシートと床給水管が干渉する場合

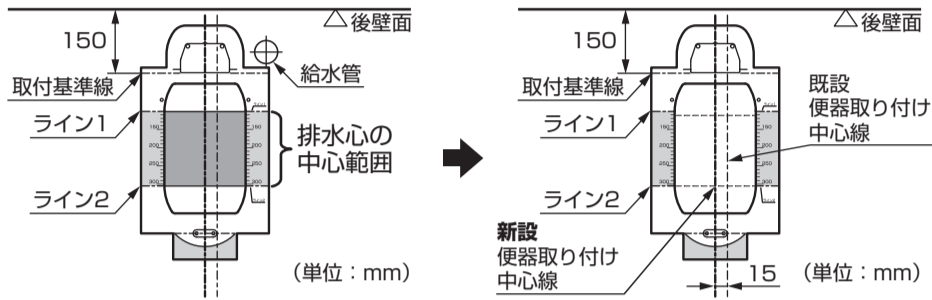
排水アジャスターを傾けて取り付けることで、給水管と干渉せずに施工することができます。

3 位置決めシートの位置決め

- 給水管取り出し範囲に止水栓があることを確認する。
※給水位置が適切でないと、止水栓が商品に干渉することがあります。
- 便器中心線を、給水取り出し位置とは反対側へ15mmずらした位置に中心線をけがく。
- けがいた中心線に、後壁面から150mmの位置に位置決めシートの取付基準線をあわせて置く。
- 位置決めシートを置いた後、排水心の位置を確認し、位置決めシートの位置を調整する。

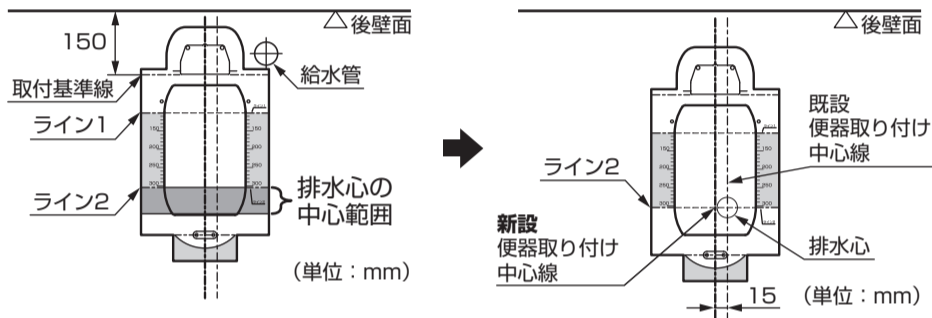
排水心の中心が、ライン1とライン2の間にある場合

位置決めシートの位置の調整は不要です。



排水心の中心が、ライン1とライン2の間でない場合

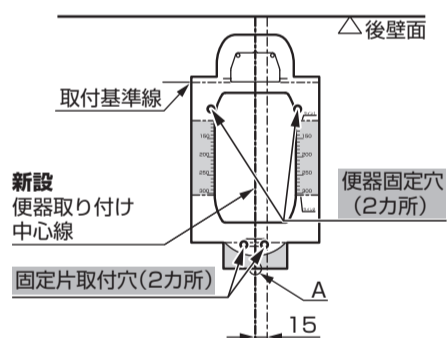
位置決めシートのライン2を排水心の中心にあわせて、位置決めシートを置く。



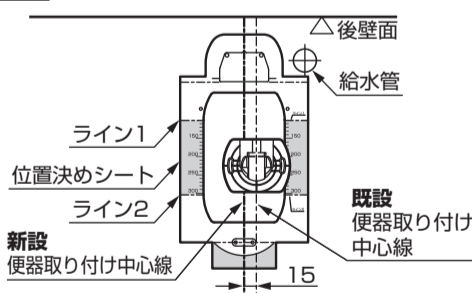
- ※取付基準線の位置決めは左右の2カ所で行ってください。
- ※後壁面から取付基準線の寸法が150mm未満の場合、便器やタンクが後壁面に干渉し、取り付けられないおそれがあります。
- ※寸法出しの際は後壁面から行ってください。(幅木からではありません)

4 位置決めシートで取付穴位置をけがく

- 固定片取付穴位置、便器固定穴位置をけがく。
- 鉛筆など(あとで消せるもの)で右図A(便器取り付け中心線)に印をつける。
- けがいた取付穴位置にφ3程度の下穴をあける。
※φ3程度の下穴をあけると作業がしやすくなります。



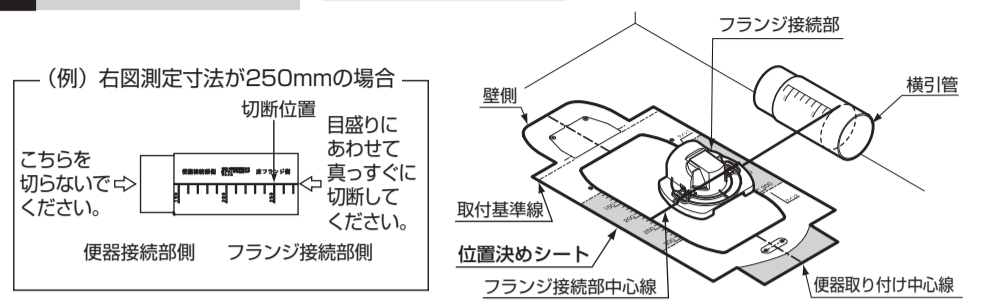
5 フランジ接続部の仮置き



注意
フランジ接続部の仮置きは、壁面に対し平行となるように置いてください。傾けて置くと、横引管の切断が正確にできなくなります。

ケース①	ケース②	ケース③
フランジ接続部中心線がライン1とライン2の間にある	フランジ接続部中心線とライン2が一致	フランジ接続部中心線とライン1が一致
目盛りにあわせて横引管切断	目盛りにあわせて横引管切断	横引管不要
6へ	6へ	7へ

6 横引管の切断 リモデルの場合



- 既設フランジ中心線とフランジ接続部中心線をあわせる。
- 位置決めシートの目盛りと同じ目盛り位置で横引管を真っすぐに切断する。
- 横引管端部のバリを完全に取り除く。

7 排水アジャスターの組み立て

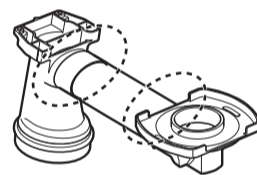
注意

- 横引管は最後まで、きちんと押し込む
接着が不十分な場合、水漏れして家財などをめらす財産損害発生の原因になります。
- 必ず実行 床面に対してガタツキがないように接着する
ガタツキが大きいと水漏れして家財などをめらす財産損害発生の原因になります。

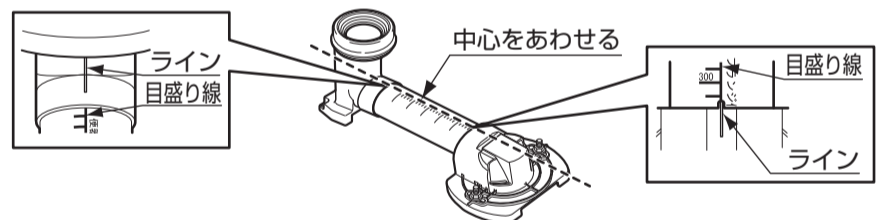
- 塩ビ用接着剤を十分塗布し、各中心をあわせるように組み立てる。



- 突き当たるまで差し込む。

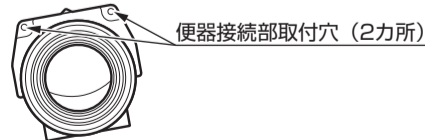


- 各ラインを目盛り線とあわせてください。

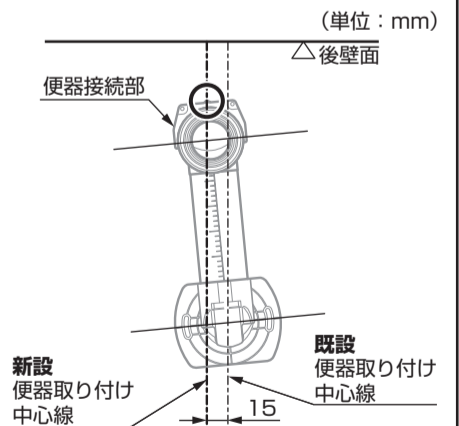


8 便器接続部取付穴位置をけがく

- 排水アジャスターを排水管に仮置きする。
- 便器接続部の台座後方中心(凸部先端)を新設便器取り付け中心線のラインと合う位置まで排水ソケットを傾ける。(○印部)
- 便器接続部取付穴位置(2カ所)をけがく。
※鉛筆などで、便器接続部の取付穴を直接けがく。



- けがいた取付穴位置にφ3程度の下穴をあける。
※φ3程度の下穴をあけると作業がしやすくなります。



以降の作業は、4~5ページ「取付方法 8~12」に従って作業してください。